



千八百七十九年八月十二日刊行横濱佛字新聞「ケリキ、ヂエ、ジャッポン」抄譯
琉球之本支那ノ関係ヲ叙述セル文

大藏省
翻譯課

1124



740

大正十一年四月

藤井善言 譯

千八百七十九年八月十二日刊行横濱仏字新聞「クローリエー、ヂエ、
シヤツ、ボーン、ル、ヤ、チ」

琉球日本支那三國ノ關係

今、琉球日本支那三國ノ關係ハ新々ニ一場ノ論題トナレリ此
時ニ當リ往古ヨリ今世ニ至ルマデ三國ノ間ニ成立チシ關係ヲ
叙述スルハ蓋シ無益ニ非ル可シ
抑ニ琉球ノ諸島タルヤ土人ハ之ヲ総称シテ「ロー、チョー」ト言ヒ
支那ハ之ヲ琉球ト呼ビ日本ハ之ヲ「リウ、キウ」又ハ沖ノ島ト名ツ
ク満州人ハ之ヲ「リオ、オオト」云フ(ノ)島嶼大小三十七ニシテ日本
ノ南西ニ在リ常ニ日本ト厚ク交親セリ其事蹟ハ筆ニ口碑ニ傳
ヘ史乘ニ載スル所ヲ以テ証シ又民事財務ノ制度ヲ同フスルヲ
以テ証ス可キノミナラス猶且風俗言語ノ相近キヲ以テ判然

篇中()内ニ
ノ数字ヲ置テ合印
ト為シテ結局ニ
至リ洋説ヲ附ル
為メトシテ
譯者謹述

証ス可シ

日本ノ舊記ヲ案スルニ帝國ノ創業主タル神武天皇ノ母ハ海龍ノ女ナリト註ニ曰ク所謂海龍ナル者ハ彼ノ自ラ稱シテ天神ノ姪ナリト云フ(2)琉球王ニシテ即チ日本帝統ノ出所ト系統ヲ同フスル者ナリト

又其制度ヲ考フルニ琉球ハ近日ニ至ルマデ政府ヲ四大部ニ區分セリ其一ハ裁判部ニシテ「シヨ、ジョー、シヨ」ト云フ其二ハ管理部ニシテ「リユ、ギョー、シヨ」ト云フ其三ハ諸士部ニシテ「キン、シユ、カメ」ト云フ其四ハ監察部ニシテ「ジヨ、コメ、カタ」ト云フ此制度ハ千八百六十八年ノ王政復古前ニ行ハレシ日本ノ制度ト相當スルモノナリト(3)

又琉球ノ「アンジ」(上等貴族)「テンソイシ」(王ノ近親)ノ設置方ハ亦タ日本ノ「オーテ」(大名)「サンゴ」(三種ノ爵位)ニ相當ス

又錢穀ノ事ヲ察スルニ「ゴクフ」ノ稱ハ今猶ホ貢租官俸等ノ計算ニ用ユ「ゴクフ」ハ支那文字ノ斛ニシテ其量ハ十「ツ」(斗)ニ當リ支那ノ目方百斤ニ當ルモノナリ然レド支那音之ヲ「ゴ」ト云ヒ「ク」ト云フハ和音ナリ又島内ニ流通セシ貨幣ハ久シク寛通永寶ノ文ニ「鑄タル日本ノ小銅貨」ニナリキ又路程一里ハ日本ノ如ク三合六町ナリト(4)

又結婚ノ制ヲ案スルニ琉球ニテハ日本ニ行ハル、ガ如ク只貴族ヲ除クノ外男女自由ニ交通シ其好ム所ニ從テ婚姻ヲ議スルヲ許ス支那ノ法度ト異ナリ(5)又饗謙ニ行フ儀式及ヒ家中ニ倚子食卓等ノ設ケナキ及ヒ衣服ノ着様ハ日本ト符節ヲ合スガ如シ(6)又宗教ハ日本古代ノ神道ナリ加之琉球人ト薩州人トニ近接セバ必ズ兩國人ノ相貌骨格ノ宛然一樣ナルヲ証セン又琉球人ノ祭スル言語ハ全ク日本ハト類似シテ日本ノ國語ヨリ分派

セル方言タルヲ証ス可シ夜令斯クノ如ク論及セズシテ分派セ
ル方言ニハ非ズト言フ者アルモ兩國言語ノ關係ハ兄弟ノ如ク
極メテ相近キモノナリト云フニ至テハ同意ナラン(7) 借又地理
ヲ以テ説ク中ハ支那ノ文人ガ云ハル如ク琉球ハ遠ク支那ヲ隔
テ近ク日本ニ接ス一葉ノ扁舟以テ薩州ニ渡ル可シ其北京ヲ去
ルヤ波濤萬里其間逆浪暴風ヲ避ク可キ所ナク堅牢ノ大船ヲ以
テ航行スト虫ト猶且覆溺ノ虞アリト(8)
日本ノ學士中是等ノ事情ヲ對照比較シテ日本南方ノ人ト琉球
人ト蓋シ同一種人ナリトノ説ヲ吐ク者多シ其説ニ曰ク往古琉
球人屢ク九州ノ地方ヲ侵シ耶蘇紀元前七百紀中即チ神武天皇
ノ世ニ至テ入寇ヲ終レリト此説ヲ實事ト見做スルハ蓋シ入寇
人ハ黑瀨川(外國地圖ニ「ク」ロシオト稱スル所ニシテ冬春ノ際西
南ヨリ東北ニ流ル、急潮ナリ)ニ沿テ薩州ノ南鬼界ヶ島大島得

能島ヲ經テ日向ノ東岸ニ達シ尋テ九州ノ東南ニ蔓延セシモノ
ナラン抑モ薩人ガ鬼界ヶ島大島得能島ニ附スルニ道ハ島ノ名
ヲ以テスルハ是等ノ緣故ナランカ(9) 且琉球ト九州ノ間ニハ季
候ニ從テ東北ヨリ西南ニ向テ或ハ西南ヨリ東北ニ向テ時令ノ
風ノリ又彼ノ往復ノ急流アリ(要スルニ琉球ヨリ入寇ノ者ハ此
水路ニ往來ノ通路トセシナラン) 是等ノモノハ皆悉ク日本人ガ
説ク所ノ事ヲシテ益々實著ナラシムル偶然ノ憑証ナリ加之若
シ旧記ニ從テ日本建國ノ始祖ヲ以テ琉球ヨリ出テシ者ト為ス
ニ非レバ此始祖ハ何レヨリ來リシ者ト為スヤ是亦前説ノ實ヲ
証スル一端ナリ(10) 且夫琉球人ガ西曆六百七年ニ當リ支那ノ大
軍ニ抗シテ剛強不屈ノ勇アリシヲ以テ察スレバ軍人ノ氣象ヲ
備ヘシ者ナリ然ルニ元正天皇ノ世即チ西曆七百一五年ニ當リ
日本ヨリ孔子ノ學ヲハレシニ依テ爾來固有ノ氣象ヲ失テ文弱

ニ流レシ、見ヘタリガ、後二十年西曆七百三十五年聖武天皇命
シテ琉球ヲシテ日本ノ統轄ヲ受ケシム其後四百五十年ニシテ
天神統ノ王家絶滅ス(11)琉球ノ記録ヲ案スルニ世々此國ニ王々
ルヲ一万七千八百二歳間ナリシト云フ(12)而ノ日本人種ノ血統ニ
移レリ時ニ西曆千八百八十七年ナリ

新朝ノ創業者ハ日本人鎮西ハ郎為朝公ノ弟二子ニシテ其ハ琉
球¹¹イリ州公ノ妹ナリ(12)初メウウラト稱ス即位ノ後舜ト稱
ス王ノ時ニ日本ノ国字イロハヲ琉球ニ入ル(13)子孫連綿トシテ
王位ヲ占メ西曆千二百四十九年ニ至テ絶ユ(14)其後西曆千三百
五十年ニ至テ王位ニ上リシガイト稱スル者亦タ其子孫ナリ
ト云フ

此大革命ノ前ニ琉球ト支那トノ關係アリ西曆六百五十年隋朝第
二世主煬帝琉球人ヲ促シテ入朝セシム然レモオコアシ曰
ク此時隋ノ使者ハ琉球ニ在リシ若干ノ日本人ノミヲ以テ通辨
トセシ故應答尽ク日本人ノ随意ニ出テ其欲スル所ヲ得ニシテ
去レリト且日本人ノ云フ所ニ從ハ、當時琉球ハ猶ホ野蠻ナリ
レト
時ニ隋ノ使者使命ヲ遂クル能ハズ因テ以テ我レニ通辨ヲ

携へて再々来らば必其志待ント是に於て先ツ琉球語ヲ学
ハシメ爲メ土人若干名ヲ携へて隋ノ帝都シシガ時歸₇₅
會、日本ノ推古帝使ヲ隋ニ通ス其送ル所ノ文ニ東方日出國ノ
天子ヨリ西方日没國ノ天子ヘ云々ノ書辭アリ
隋帝昏僻ノ暴慢ナルヲ怒ルニ際レ遣琉球使モ亦夕還ル尔後頻
リニ琉球ヲ征服シテ日本ノ威カヲ殺カント謀ルヲテ一大臣ヲ
シテ答昏ヲ齎ラシ日本帝ニ贈ラシメ別ニ一行ノ使臣ヲ遣ハシ
琉球王ニ迫リ隋朝ノ命ヲ奉セシム₁₆琉球王傲然トシテ肯カハズ
隋帝兵一万余ヲ發シテ来リ攻ム琉球ノ軍敗レ王モ亦夕戰没ス隋
兵進テ都城ヲ燒キ俘虜五千ヲ引テ去ル
尔後八百年間支那帝ノ名中華ノ稱断ヘテ琉球ニ聞ヘズ故ニ支
那國ハ彼ノ一戰ヲ以テ國威ヲ琉球ニ懾カセシト見做シ置テ願
ミガリシモノ、タリ

然レ是ヲ以テ支那人ハ満足セシニ非ス八百年間ハ是ニ一時
ノ休戦ニシテ琉球經畧ノ事ハ尔来常ニ支那人ノ念頭ニ存スレ
ル當時只管朝鮮吞併ノ事ニ関シテ更ニ琉球ヲ願ルノ暇アラガ
リレモノナリ抑モ朝鮮ハ曾テ神功皇后ノ爲メニ征服セラレ日
本ノ属國トナリレ國ナルヲ支那ハ彼ノ琉球ノ役後數歳西曆六
百十八年ニ於テ之ヲ經畧セリ此一着ヲ以テスラ己ニ日本ノ怒
ヲ惹クノ虞アルニ況ンヤ琉球マデモ一時ニ併セタラレニ餘
リニ是タレシキ事ト思慮セシナラン故ニ當時ノ記紀ニ「三韓支那
ニ歸スト虽氏無事ナリ」トアリ支那人ハ日本ノ勢力ヲ殺クノ
志アレシ日本ヲ怒ラシテ直チニ兵ヲ構フヲ欲セガリシナリ
夫レ朝鮮ハ貢租ヲ日本ニ入ルト虽氏日本全國ノ郵分ヲ爲ス國
ニ非ス加之支那ノ之ヲ略スルヤ説アリ白ク朝鮮ニ礼ヲ所爲
リ故ニ其罪ヲ問フノ結局千ハヲ交ニルニ至レリト此説誠ニ一

理アリ故日本国ハ王ク甘シキルニ非スト至氏無事ニ濟マセ
シナ然レ氏琉球ノ如キハ支那ト怨ヲ結フノ理ニ故ニ一
朝ニ朝鮮ヲ畧シ又無名ノ師ヲ琉球ニ遣ラバ日本豈能ク傍觀セ
シヤ必ス此再度ノ侵撃ヲ以テ本國ノ獨立ヲ脅迫セラルモ
トシカヲ以テカニ抗スル一撃ニ出テシ故ニ支那ノ琉球ヲ侵ス
日本ト大戰端ヲ開クナリ然ルニ支那ハ未ダ十分ノ戦備ヲキカ
故日本ト事ヲ起スヲ憚リシナリ

其後西曆千二百八十一年ニ至リ以爲ク我力能ク日本ヲ征スル
ニ足ルト乃チ決然兵ヲ擧テ琉球ヲ經略セント欲ス是時ニ当リ
支那帝位ニ在リシ者ヲ「シエツ、ユエ」世祖ニ元ノト稱ス歐洲ニ
テクブラインカント稱スル者ナリ中華ノ強盛ナリシハ此時ヲ極
トス其版圖ハ北極ヨリ起テ南ノ方麻刺加ノ海峡ニ亘リ西ノ方
印度斯坦阿刺非印度ニ至西亜ノ西界ニ在ル諸國ヲ除キド、エ、ペ

改羅巴露西ニ至ルヤテノ諸國ハ尽ク服從シテ貢租ヲナル是
ニ於テ支那帝以爲ク我版圖ヲ廣ムルニハ地上人類ノ住スル所
只年来垂涎スル琉球ヲ収メ尋テ日本ヲ畧スルニ在ルノミト乃
チ一隊ノ戦艦ヲ備ヘ撃兵以來百戦百勝ノ猛兵ヲ載セテ琉球海
ニ向ハシメ猶ホ戒心ニ戒心ヲ加ヘ日本ト宿怨アル朝鮮王ニ命
シ大軍ヲ將テ從ハシメタリ戦備ノ十分ナルヲ日本ノ戦艦之ニ
近ツカバ如何アラシカト危フマレタリ然ルニ日本ハ幸ニシテ
カ、ル事アルヲ知ラガリキ「シエツ、ユエ」曰ク支那ノ戦艦ハ事
故アリ臺灣ノ西岸ヲ過クルヲ能ハズシテ還レリト紀事甚ク不
分明ナリ又一説ニ從ヘバ毎歲一定ノ時令ニ當リヨリツポイ
島ヨリ起テ日本ノ東北ニ向フ所ノ暴風ニ逢テ散亂シ水軍ノ將
卒或溺没シ或ハ「シエツ、ユエ」ノ海岸兵人ノ境ニ歸
ルヲ能ハズ若千ノ蒙古隊ノハ又那ニ歸リシ者ハ極メテ僅少ナ

リシト云、是レ実説ナリト
 日本、支那入寇ノ害ヲ免レシ所以、斯ノ如シト云、此入寇
 二逢ハ、及令敗亡ノ耻辱ヲ取ラズシテ能ク勝テ制シ得ルモ激
 戦ノ餘ハ大國ト至レ頓ニ其創痕ヲ愈レ難キ所ノ患害ニ羈リシ
 ナラン
 茲ニ又支那ノ水軍ノ難風ニ逢テ帰ルヲ見テ再ヒ七師ノ準備ヲ
 為ス今回ハ特別ニ日本ニ向テ發スルモノニシテ準備ノ齊整
 セル、初度ニ倍ス戦艦三千五百艘十万人支那人七千ノ朝鮮人
 之ニ乗ル帆影ノ海面ヲ覆フハ恰モ白鷺ノ琵琶湖上ニ群飛スル
 カ如クナリシト云フ此役ヤ彼タ颯風ニ逢テ沈没スルモノ幾千
 人残テ船中ニ在ル者或ハ避ケテ高島ニ上リシ者ハ日人ノ為メ
 ニ鑿セラル此時日本ハ支那人三人ヲ放テ帰シテ敗報ヲ支那帝
 ニ傳ヘシム實ニ西曆千二百八十一年八月ナリ

然ルニ世祖ハ猶ハ淫阻セズ再ヒ蒙古兵ヲ將々親ラ日本ニ向ハ
 シト欲スト至レ國ニ内乱アリ沿海地方ニ倭寇アリ「ヤ」ヲ伐テ
 大敗シ(西曆千二百九十二年)尋テ其身モ死セシ(西曆千二百九十
 四年)是ヲ以テ護讎ノ志ヲ果カズ設レ此救者微リセバ日本ハ再
 度入寇ノ害ヲ被リシナラン
 世祖死スルノ後支那ハ内外連年ノ戦役ニ靡弊セシヲ以テ暫ラ
 ク琉球日本ノ談興ヲサルヲ以テ幸トセリ其後百年西曆千三百
 七十二年ニ至リ再ヒ宿志ヲ發ス
 明ノ太祖即位ノ時ニ當リ琉球國ニ王位ヲ爭フノ乱アリ遂ニ三
 分割據ノ國ト為ル中山山北山南ト云フ各別ニ王アリ太祖以爲
 ク是レ支那ノ政略ヲ琉球ニ施スノ好機會ナリト明主固ヨリ他
 ニ志望アルニ非ズ只琉球諸王ガ入朝シテ封爵ヲ請フニ在リ故
 ニ其琉球國ニ干渉スルノ目的ハ之ヲ支那ノ屬國ト為スニ非ズ

只三國王、篡奪セル討爵ヲ、然ト定ムルガ為メナリキ
シ原キ

大藏

